

財団法人 設立記念行事

第22回 太田綜合病院学会

テーマ

魅力ある太田綜合病院へ向けて

(日時) 平成29年10月26日(木) 14:30~17:00

(会場) 郡山市民文化センター 大ホール



一般財団法人 太田綜合病院

私 た ち の 誓 い

- 一、最善の医療を やさしさと思いやりをこめて捧げます
- 一、地域の信頼の上に 新しい保健 医療 福祉の輪を拡げます
- 一、歴史と伝統を胸に 中核病院としての責任を果たします
- 一、それぞれが謙虚で誠実な品性を育て 友愛で結ばれた院風をつくります
- 一、先ず自らの健康に努め 使命に役立つ心と 知識と 技術を磨きます

1990年8月18日制定(病院創立95周年記念)

行 動 規 範

[一社会人として]

- 私たち職員は、理想を目指す人間の一人として、自らの欲望、無知、怒りに基づく行動を厳しく慎み、諸悪を憎み、公正で中庸の道を歩みます。
- 私たち職員は、自らを修め、教養と品性の練磨を持続します。
- 私たち職員は、法を遵守し、反社会的行為や思想には毅然とした姿勢で臨み、そのような組織・集団とは関係をもちません。
- 私たち職員は、地域社会への貢献を率先垂範し、他の社会人の模範となる行動をとります。
- 私たち職員は、国際人として、グローバルな観点に立ち、広い知識をもって、環境問題や人類愛に目を向けた努力をいたします。

[一医療人として]

- 私たち職員は、すべての病める人、悩める人、心配している人に、等しく慈しみの心をもって接します。
- 私たち職員は、患者さんやご家族の言葉に真剣に耳を傾け、相手の意思を尊重し、自らの行動に照らしてみる努力を行います。
- 私たち職員は、患者さんとの専門的支援関係を最も重視し、職員相互の専門性を尊重し、その連携・協働のもとに職責を果たします。
- 私たち職員は、自己の偏見や先入観を排し、患者さんをあるがままに受け入れ、患者さんの自己決定やプライバシーを尊重します。
- 私たち職員は、単なる病気のキュア (cure) にとどまらず、患者さんやご家族への思いやりをこめた全人的なケア (care) を行います。
- 私たち職員は、患者さんやご家族に対し、分からぬものは分からぬと言える十分な知識をもち、見えないもの・神秘的なものをも無視しない謙虚さを持ちます。
- 私たち職員は、医療や福祉のために誠心誠意尽くしても、それを恩に着せたり、見返りを求めるような行為は絶対にいたしません。

[一組織人として]

- 私たち職員は、どこにあっても、太田綜合病院の職員であるという矜持を保ち、教養と品性をもって行動します。
- 私たち職員は、太田綜合病院の担い手としての自覚をもち、業務上必要な知識の研鑽、担当業務や経営の改善に向けた努力を怠りません。
- 私たち職員は、太田綜合病院の一員として、連帯感、帰属意識、意思疎通に心を配り、働きがいのある職場環境づくりに努めます。
- 私たち職員は、後進の指導に熱意をもって当たり、太田綜合病院の美風を継承していく努力を持続いたします。
- 私たち職員は、職務関連の法令を遵守し、不正を行わず、高い倫理観と責任感をもって職務に精励します。
- 私たち職員は、太田綜合病院の関連先との関係を、公正かつ信頼の上に成り立つものといたします。
- 私たち職員は、地域社会との良好なコミュニケーションを図り、必要な情報は積極的に開示し、また、個人情報や職業上知り得た情報の管理には厳正に臨みます。
- 私たち職員は、思慮深い判断と情報の分析を常に心がけ、大胆に将来計画を考え、絶えず改革向上に努めます。

ごあいさつ

一般財団法人 太田綜合病院
理事長 堀 江 孝 至

1993年（平成5年）に第1回が開催された太田綜合病院学会は、本年で第22回目を迎えます。本学会は、職員が一堂に会する唯一の機会であり、本年も有益な意見交換の場となることを期待しております。

我が国では戦後、第一次ベビーブームや第二次ベビーブームが起こりましたが、その後の出生数は経年的に減少する状況が続いてきました。そして、2016年には初めて出生数が100万人を下回り、日本の人口減少の傾向が改めて明らかとなりました。2025年には、第一次ベビーブームで生まれた方々が後期高齢者になります。この状況に対して2025年を目途に、高齢者が住み慣れた地域で人生の最後まで暮らせるよう、「住まい・医療・介護・予防・生活支援」が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築に向けた対応が進められています。当法人としても迅速に対応していきたいと思っております。

今回の学会では、両病院長・老健所長からの現況の講演とともに、学会テーマの「魅力ある太田綜合病院へ向けて」の話も期待しております。

ごあいさつ

第22回太田綜合病院学会
実行委員長 川上 雅久

第22回太田綜合病院学会を開催するにあたり、ご挨拶を申し上げます。

昨年の第21回太田綜合病院学会では、将来の太田綜合病院を担う職員の方々が「魅力ある太田綜合病院に向けて」どのように考えているのか、パネルディスカッションで活発な議論をしていただきました。いろいろな考えがあり、一人一人の職員の方々が真剣に太田綜合病院について考えているということを感じ取っていただけたのではないかと考えています。

今年は、新保卓郎太田西ノ内病院長、太田宏太田熱海病院長、渡邊実老健桔梗所長の3人の施設長の先生方による講演とパネルディスカッションの二部構成からなっています。昨年が職員からのメッセージの発信、これを受けて今年は施設長からのメッセージの発信という形になりました。

我々職員が働いている施設の長が現状をどのように分析し受け止めておられるか、医療取り巻く厳しい環境のなかでどのような舵取りをしようと考えておられるのか、じっくり聞ける絶好の機会ですので是非傾聴してください。

講演の後に行うパネルディスカッションでは今回の学会のテーマでもある「魅力ある太田綜合病院に向けて」について、3人の先生方がどのように考えておられるのかを職員の方々に発信していただきます。立場上なかなか言えない部分もあるでしょうが、座長として先生方の“本音”を聞き出し、普段なかなか見られないような先生方の“顔”がみえれば、と考えております。

パネルディスカッションでは十分な時間がありませんが、可能な範囲で参会されている職員の方々の意見や質問をお伺いしたいと考えておりますので、会場の皆様のディスカッションへの積極的な参加をお願いいたします。

今回のように一般演題がない学会は過去になく初めての形式であります。会場にお越しいただいた職員の方々全員が聞いてよかったです、また話を聞きたいね、と言つていただけるような学会にしたいと考えておりますので皆さまのご協力をお願い申し上げます。

プログラム

開会 [14:30]

挨拶

理事長

堀江孝至

実行委員長

川上雅久

第Ⅰ部 講演 [14:40]

座長 太田西ノ内病院

副院長

川上雅久

1 太田西ノ内病院の現況

太田西ノ内病院

病院長

新保卓郎

2 太田熱海病院の現況

太田熱海病院

病院長

太田宏

3 介護老人保健施設桔梗の現況

介護老人保健施設桔梗 所長

渡邊実

休憩

第Ⅱ部 パネルディスカッション [16:15]

テーマ：魅力ある太田総合病院へ向けて

座長 太田西ノ内病院

副院長

川上雅久

パネリスト 太田西ノ内病院

病院長

新保卓郎

太田熱海病院

病院長

太田宏

介護老人保健施設桔梗 所長

所長

渡邊実

閉会 [17:00]

第Ⅰ部 講 演

講演1 太田西ノ内病院の現況

太田西ノ内病院 病院長 新保 卓郎

本講演では、太田西ノ内病院の実績、病院を取り巻く周辺環境、そして私自身の個人的な期待について触れたい。

太田西ノ内病院の基本方針として、急性期病院であり、地域と連携し信頼される病院であること、患者の皆様の人格を尊重すること、質の高い安全な医療を提供すること、人材育成に努めることなどが定められている。見える化が容易でない事項もあるが、現時点までは職員一同の努力により十分な実績をあげてきたと考えている。

年間の実入院患者数は県内の病院の第1位である。救急車受け入れ件数は県内で第3位である。連携の指標と考えられる紹介による入院患者数も県内で第3位である。患者満足度は高く、転倒・転落による損傷の発生率や褥瘡発生率も低く抑えられている。DPCは大学病院本院に準ずる病院として2016年からII群に指定されている（全国で140病院）。ただ在院日数は全国のII群病院と比べて約1.5日長い。実入院患者数はここ10年間ほぼ一定の水準で推移しているが、75歳以上の高齢患者の入院割合が顕著に増加しており、患者一人当たりの業務密度は濃厚になっていると考えられた。人材育成という観点では、多くの学会の認定教育施設になっており、研修医は県内の症例報告会で毎年受賞している。発表される英文論文数も増加してきた。

周辺環境という点では、国民医療費の増加が顕著である。健康保険制度が持続可能なのか危惧される。高額医薬品が導入され、「医学の勝利が国家を滅ぼす」という書籍も説得力をもっている。解決策として、薬価の抑制、効率的な資源運用、供給の制限、需要の低下、財源の増加などの方法が提案されている。医療提供体制や健康保険制度も大きな影響を受ける可能性がある。医療法の改正による地域医療構想は、地域における適正な病床数を達成しようとするものである。2025年の必要病床数と比較して現在報告されている病床数では、急性期病床数が過剰であり、回復期の病床数が不足している。地域医療調整会議などで県内の医療提供体制について協議することが求められている。また専門医制度が変わろうとしている。従来は各学会が独自に専門医を認定しており、その実情について社会一般には大変分かりにくいものであった。19の基本領域の専門医が定められ、サブスペシャルティーの専門医は基本領域の専門医取得が前提となるように統一された。院内でも新専門研修プログラムを作成しており、一部の診療科では後期専門研修の方法も変更されていく。

現時点までの実績をみると、太田西ノ内病院は地域での役割を十分果たしてきたと考えている。今後、腫瘍集学治療センターの竣工とリニアックの運用開始、新しいCTスキャンの設置、電子カルテ更新などの必要に迫られている。ハイブリッド手術室の設置、薬剤業務、緩和ケア病棟などについても十分議論される必要がある。人材確保は大きな課題であり、医師、看護師、薬剤師など、今後大きな問題を生じる可能性がある。どの職種にとっても大変に厳しい業務であるが、互いに支えあうことで、やり甲斐があり成長できて楽しい職場であることを期待している。それが我々が仕事を通して生み出すことのできる価値である。激流の中で容易ではないが、今後もこのような病院で有り続けたい。

講演2 太田熱海病院の現況

太田熱海病院 病院長 太田 宏

1. はじめに

2025年には、団塊の世代が全て75歳以上の後期高齢者となり、様々な問題が表れてくるであろうといわれております。

人口構造の変化では、少子高齢社会、高齢者の増加、高齢者人口の地域格差、多死社会の到来、疾病構造の変化では、高齢化に伴う疾病即ち癌、心臓疾患、脳血管疾患、肺炎、糖尿病とその合併疾患、認知症等の増加、財政構造の変化では、税収入の減少、社会保障費の減少、消費税10%への増税、医療構造の変化では医師等医療従事者の地域偏在等々の問題が一気に噴出していくと考えられております。

厚労省はその対応として、地域医療構想を打ち出し、現在の疾病構造や人口動態から2025年を類推して情報を示しながら、その地域に見合った医療の在り方を提言し、病院間の議論を促しているところです。

又、市町村単位では地域包括ケアシステムを構築し、高齢者がその人の生活能力にあわせて住み慣れた我が家で暮らすことが出来るように体制を整えようとしております。これから多くの高齢者が疾病に対する急性期治療を受けることになりますが、若年者と明らかに異なることは、麻痺や筋力低下を克服する力、認知障害の発生、嚥下する力等が劣っていることです。若年者と同じような感覚で在宅に戻ると、たちまち廃用症候群や転倒骨折を引き起こします。そこで医療から介護サービス、訪問リハなどへの詳細な情報提供がなされ切れ目のないサービスやリハビリを行う必要があります。又地域住民の健康管理も重要です。生活習慣のは正、癌検診の重要性などの研修会を繰り返し開催し、平均寿命ではなく健康寿命の延伸を図っていくことが重要です。

次に福島県では平成30年4月から、第7次福島県医療計画が策定され実行に移されます。5疾病「がん」「脳卒中」「心筋梗塞等の心血管疾患」「糖尿病」「精神疾患」、5事業「救急医療」「災害医療」「周産期医療」「へき地医療」「小児医療」そして在宅医療について現状と課題、目標と施策が示されました。

2. 太田熱海病院の現況

昭和24年に熱海診療所が開設された時点の理念「無医地区に医療を」が現在でもなされているか、地域に貢献しているのか、太田西ノ内病院との連携、バックアップ機能は果たされているか等について検証します。

3. 太田熱海病院の今後

地域医療構想、地域包括ケアシステム、第7次福島県医療計画を考慮し太田熱海病院の今後の機能について考察します。

講演3 介護老人保健施設桔梗の現況

介護老人保健施設桔梗 所長 渡邊 実

I. はじめに

平成12年4月に介護保険法が施行されました。この法律の趣旨は高齢者が住み慣れた地域で生活が継続できるように必要な介護サービスを提供するというものです。そのサービスには大きく分けて三つあり、一つは在宅で利用する通所系、訪問系のサービス、二つ目は身近な市町村で提供される地域密着型サービスで、最後が特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの入所系サービスです。入所系サービスのうち特別養護老人ホームは一昨年4月からは原則として要介護3以上で常時介護を必要とする方を対象としており継続入所ができます。これに対して介護老人保健施設は入院治療は必要ないほどに病状が安定している方に医療上のケア、リハビリテーション、介護を提供し家庭への復帰を支援するという役割を担っており原則として入所期間は3ヶ月とされています。桔梗はこの介護老人保健施設として平成8年に開設され、今年で21年目を迎えました。今回その運営状況を報告させていただきます。

II. 桔梗の現況

1. 施設の概要

定床は100床です。大部分は長期の利用者ですが、一部ショートステイの方も含まれます。また、定員20名の通所リハビリも併設されています。職員は医師、看護師、介護福祉士、支援相談員、介護支援専門員、リハビリスタッフ、管理栄養士、調理師、事務員などです。施設の利用は、相談受け付け、申し込み、実態調査、入所判定会議での判定、契約、入所という流れになります。定例の会議として、運営連絡会、入所判定会議、安全管理委員会、感染対策委員会、身体拘束廃止委員会、栄養管理委員会、経口維持加算委員会、衛生委員会、防災委員会、研修委員会、広報委員会、接遇向上対策委員会、利用者サービス委員会などがあり、それぞれ委員長を中心に年間を通して委員会活動を行っています。

2. 施設運営の現況 (BSCの項目に沿って)

(1)利用者の視点（利用者の満足度、施設環境の整備、相談体制の充実）

利用者の健康管理においては特に高齢者の集団生活の場ということで感染対策が一番重要であると考えます。インフルエンザが平成26年にアウトブレイクしましたが、標準予防対策を徹底することで平成27年以降は発症を予防できています。なお、この対策には家族の面会やボランティアの制限などマイナス面もありますが利用者、家族のご理解をいただきながら感染予防に努めています。次に相談件数は減少傾向にあり、これは施設利用率の低下の一因となっていることから、その原因について検討する必要があります。

(2)医療、介護の質と安全

高齢者に多い転倒、転落においては桔梗独自の転倒、転落アセスメントスコアを活用し危険性の高い利用者を特定し職員に周知することで予防に努めています。また、平成28年にナースコールを更新し、起き上がり転倒防止のためのベッドセンサー、ビームセンサーをPHSに連動させた結果、迅速な職員の訪室が可能となり転倒、転落の発生が減少しています。転倒、転落以外の事故、ヒヤリハットに関しても同委員会において検討し、その結果を職員に周知するという活動を継続しています。

(3)組織・業務改善（連携強化、経費節減）

限られた人員のため、可能な限りではありますが本部・総合福祉統括部連絡協議会、あたみ地域包括ケア会議への参加を続けています。相談件数や利用率の低下がありこの改善のためにさらに連携を深めていきたいと考えています。同一法人内である太田西ノ内病院、太田熱海病院に対しては特に利用者の依頼が増えるような対策、工夫が必要と考えられます。薬剤費節減に関しては薬剤師を含めた適正処方にについての検討の機会を持つことで順調に低減しています。太田西ノ内病院、太田熱海病院からの入所者に関しては主治医の先生にはこの点についてご理解の上、可能な範囲で処方の変更など協力していただいている。

(4)従業員育成

職種ごとに外部の研修会へ参加している他、施設内研修会を毎月1～2回開催し、太田西ノ内病院、太田熱海病院の各部署の講師により感染対策、安全管理、栄養、嚥下障害など身近で重要なテーマで講演をしていただいている。

(5)財務の視点

延べ利用者数（利用率）は平成25年以降在宅復帰支援と特養への入所申し込み増加に伴い低迷しており、また新規入所者数は平成28年以降減少しています。新規入所者の減少の結果、身体面、認知面への短期集中リハ加算の取得も減少しています。また近年は入所者の高齢化と要介護度の上昇に伴い、緊急入院や特養への入所増加、さらに入所・在宅を繰り返す利用者の減少した結果、在宅復帰率よりも入所者数維持を優先することで在宅復帰加算を取り下げています。このように、利用率の減少や、加算の取得への影響などが収入の減少に結びついています。これに対して、各事業所や病院との連携を深めていくと同時に、先に挙げました課題を改善することで「選ばれる施設づくり」を目指して経営努力を続けていくことが必要であると考えます。

第Ⅱ部 パネルディスカッション

テーマ：魅力ある太田総合病院へ向けて

第22回太田綜合病院学会実行委員

委員長 川上雅久（西ノ内／医局）、副委員長 松枝久雄（熱海／医局）、
庭山知子（太田訪問看護ステーション）、服部祐太（西ノ内／検体検査科）、柳沼孝寿（西ノ内／放射線部）、
佐藤未織（西ノ内／薬剤部）、柳沼 愛（熱海／看護部）、七海憲枝（西ノ内／看護部）、
山内泰輔（西ノ内／医事課）、佐藤遼太郎（西ノ内／作業療法科）、鳴原彦人（桔梗保育園）、
長沢舞子（老健桔梗／通所リハビリテーション）、遠藤久美（看護専門学校／事務）、平井智文（西ノ内／栄養部）、
佐藤博美（熱海／医事課）、大内 哲（熱海／学術庶務課）、浜津夕起子（法人／総務部秘書室）、
佐藤理恵（法人／総務部秘書室）、遠藤彩子（法人／財務部経理課）、佐久間美里（法人／総務部人事課）、
伊藤芳朗（法人／企画情報部企画推進室）、寺島胤之（法人／企画情報部ＩＴ管理課）、
国井聖樹（法人／企画情報部ＩＴ管理課）、安瀬友二（法人／総務部総務課）、濱崎 翔（法人／総務部人事課）、
遠藤裕一（法人／総務部人事課）、菅家大祐（法人／総務部総務課）、佐久間与四成（法人／総務部総務課）、
太田 博（法人／総務部教育研修課・幹事）

郡山市民文化センター大ホール座席配置図

舞 台

1F
560席

1
扉

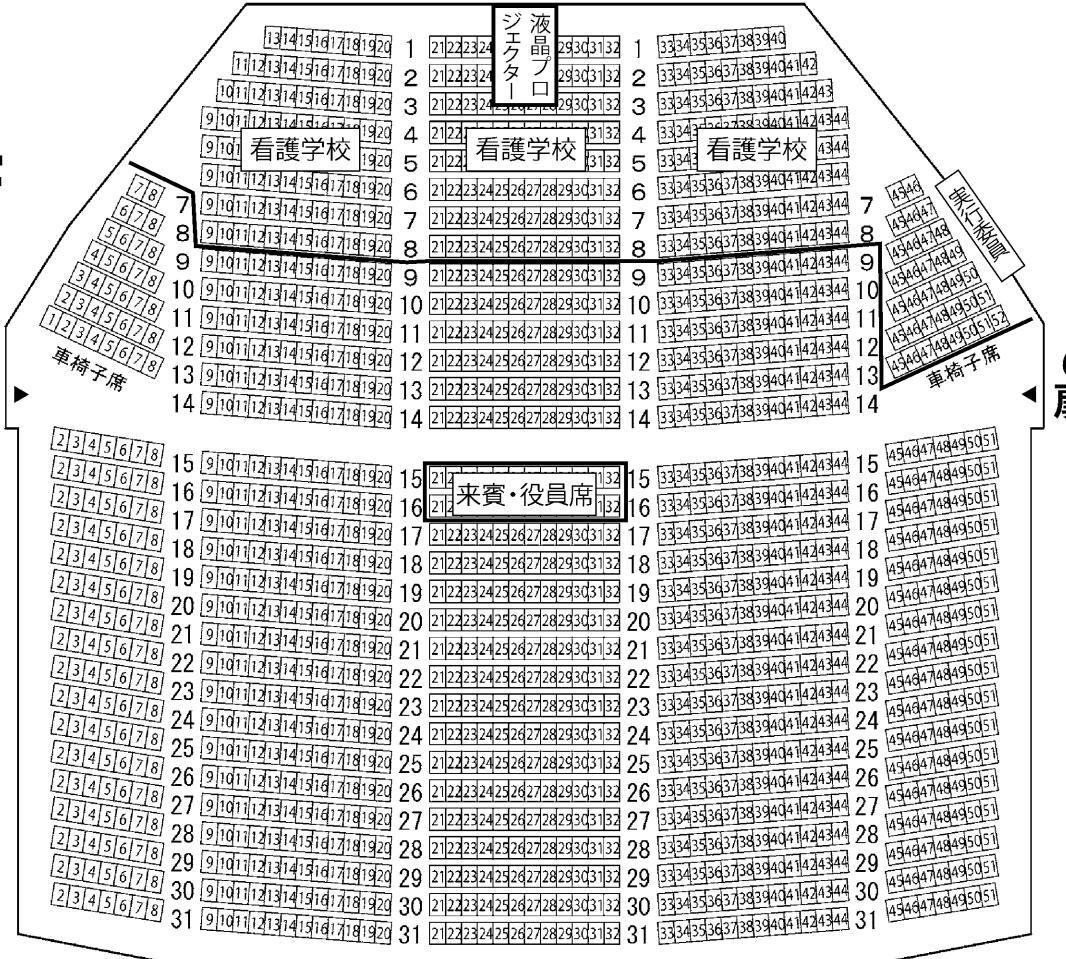
2F
850席

交代勤務等
職員のため
の予備席

3F
364席

6
扉

東椅子席



2扉 3扉 4扉 5扉

7扉

8扉

～前方からつめてお座り下さい～